

## 縞葉枯病抵抗性のWCS用稲品種「つきすずか」の奨励品種採用

利用対象：WCS用稲を栽培する経営体

**目的：**近年、晩生品種の普及により三重県内でのイネ縞葉枯病の発生が散見され、今後も増加が懸念されます。県内ではWCS用稲品種「たちすずか」の導入が進んでいますが、同品種は縞葉枯病に抵抗性を有しておらず、今後、イネWCSの安定生産のためには縞葉枯病抵抗性品種の導入が必要です。そこで「たちすずか」とほぼ同様の品種特性を持つとされ、縞葉枯病抵抗性を有する「つきすずか」の三重県内での栽培特性を把握し、円滑な品種導入に繋げていきます。

**成果：**「つきすずか」は「たちすずか」と比較して出穂期、黄熟期は同日で、WCS用稲の収穫適期である黄熟期の草丈、乾物重および穂部割合はほぼ同等でした。また縞葉枯病の発病は認められませんでした。パウチ袋で調製した「つきすずか」WCSのpHおよび有機酸組成は「たちすずか」と同等で、酪酸およびVBNの生成量が少なくV2スコアは「良」と判定される品質でした。

表1 「つきすずか」の生育特性および収量

品種名	出穂期 (月.日)	黄熟期 (月.日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	倒伏 (0-5)	送風後 倒伏角 (°)	縞葉 枯病 (0-5)	乾物重 (kg/a)	比較 比率 (%)	穂部 割合 (%)
つきすずか	8.25	9.20	146	328	0.0	55.3	0.0	161.6	101	3.7
(比)たちすずか	8.25	9.20	147	293	0.0	36.3	0.2	160.5	100	4.2

注1) 2019年と2020年の2か年の平均値。総窒素施肥量は両年とも13.2kg/10a

注2) 移植日は2019年:5/15、2020年:5/14。栽植密度は2019年:22.2株/m<sup>2</sup>、2020年:18.2株/m<sup>2</sup>

注3) 送風後倒伏角は、人口台風発生機による風雨を2分間当てた後、直立を0°とした時の株角度

注4) 倒伏および縞葉枯病の発病程度は0(無)～5(甚)の6段階評価、調査時期は黄熟期

表2 「つきすずか」WCSの発酵品質

品種名	水分 (%)	pH	有機酸含量(原物中%)				VBN (%)	V2スコア (点)
			乳酸	酢酸	プロピオン酸	酪酸		
つきすずか	63.2	5.15	0.24	0.18	0.00	0.09	0.02	92
(比)たちすずか	62.7	5.35	0.13	0.20	0.01	0.13	0.02	89

注1) 2019年と2020年の2か年の平均値

注2) 各品種の黄熟期(2019年:9/24、2020年:9/18)にサンプリングした稲体を3cm程度に細断し密封後、2019年は60日間室温放置、2020年は28℃で60日間インキュベートしたサンプルを分析に使用した。

注3) VBN:揮発性塩基体窒素、V2スコア:酢酸、酪酸、VBN含量を点数化し発酵品質の良否を判断する指標、100点満点で評価し、80点以上:良、60～80点:可、60点未満:不良

注4) 全国酪農業協同組合連合会分析センターによる分析値

### 活用面および留意点：

2か年の試験期間中に倒伏の発生は見られませんでした。台風等の強風に遭遇すると「つきすずか」は「たちすずか」に比べ倒伏程度が大きくなる可能性があるため、実際の栽培にあたっては過剰な施肥を避けるようにしてください。

お問い合わせ先	生産技術研究室 農産研究課 山川智大 中央農業改良普及センター 田畑茂樹、山本泰也	電話 0598-42-6359 電話 0598-42-6323
参考になる資料	<a href="http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm">http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm</a>	